

自衛隊神奈川地方協力本部

青葉区民まつりで地域と交流



自衛隊市ヶ尾募集相談員会
監事 矢島 秀一 様

地域との連携を深め、募集相談員の協力を得ながら自衛隊の魅力を発信し、入隊者の獲得に努めていく」としている。

また、自衛隊市ヶ尾募集相談員会監事の矢島秀一氏には、展示や試着体験の補助として協力をいただいた。矢島氏の親しみやすい声かけにより、子どもたちが次々と迷彩服姿で記念撮影を行い、保護者からも「可愛い」「似合ってる」「こっち向いて」と笑顔が見られ、ブース周辺は終日活気に包まれていた。

市ヶ尾募集案内所では、災害派遣用個人装具の展示や、迷彩服の試着体験を実施した。背嚢に重りを入れ、物資運搬時の重量を来場者に経験してもらうと、来場者からは「こんな重い荷物を運んでいるんですね」「国を守り、災害時には助けにきてくれてありがとうございます」といった言葉が寄せられた。

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長市川直人2等空尉）は、11月3日（月）に開催された「青葉区民まつり2025」に参加した。当日は朝から天候に恵まれ、会場は多くの地域住民で賑わっていた。模擬売店や体験コーナー、ステージ発表など多彩な催しが行われ、子どもから大人まで楽しめる内容となっていた。



田奈高校の防災訓練を支援 卒業生が母校訪問も実施



胸骨圧迫実習

市ヶ尾募集案内所は「今後も学校や部隊と連携し、自衛隊の魅力を伝え、入隊者の獲得に努めていく」としている。

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長市川直人2等空尉）は、11月6日（木）、神奈川県立田奈高等学校で実施された防災訓練を支援した。

訓練では、AEDと胸骨圧迫による心肺蘇生体験、リチウムイオン電池の安全な扱い方、調理中の火災の注意点、やけどの応急処置について、全校生徒を4グループに分けて展示・説明した。隊員が実演を交えて説明すると、生徒たちは真剣に手順を確認し、リチウムイオン電池の取扱要領については「日常でも注意が必要だ」と理解を深めていた。やけどの応急処置では「もしもの時に役立ちそう」と関心を示し、心肺蘇生の体験では「実際にやってみると意外と難しい」と挑戦する姿も多く見られた。

今回は、海上自衛隊厚木航空衛生隊の田中淳司2等海曹、武藤香里3等海曹及び陸上自衛隊機甲教導連隊の橋本康平1等陸士も参加し、説明にあたった。生徒たちは隊員の説明を通じて、自衛隊の専門性や幅広い任務を身近に感じていた。

さらに、今年春に田奈高校を卒業して自衛隊に入隊した橋本1等陸士は母校訪問を実施した。「半年しか経っていないのに懐かしい」と話し、恩師と近況を語り合った。先生方からは「立派になったね」「少し引き締まった？」といった声かけられ、高校側にとっても自衛隊への理解を深める機会となった。



元担任の先生との写真